

『子どもたちのLGBT』

朗読者 尾木直樹

9

私はずっと学校の先生をしていたんだけど、当時クラスの生徒と交換日記をしていたの。女子生徒の進路の相談から恋の悩みまで、交換日記にアドバイスを書いて渡していて、気持ちはすっかり女子中学生。家庭でも妻と二人の娘に囲まれていたから、この話し方がすっかり板についてしまったのね。

10

みなさんが「尾木ママ」って親しみを込めて呼んでくれるし、この個性のおかげで私のことを知ってもらえたら、うれしいなと思います。

15

今日お話しするのは、LGBTのことです。性的マイノリティとか性的少数者という言い方もあるわね。

自分と同じ性の人を好きになるレズビアン、ゲイ、男性も女性もどちらの性の人も愛するバイセクシュアル、体と心の性別が一致しないトランスジェンダー。この頭文字を合わせて「LGBT（エルジービーティ）」と呼びます。LGBTの人の割合は現在十三人に一人ともいわれています。

20

今、私が気になっているのは、子どもたちのLGBTの問題です。トランスジェンダーに含まれる性同一性障害の子どもたちの多くは、小学校に上がる前にすでに自分の性別に違和感を持つ

ているというデータがあります。

男の子だけどスカートをはきたい。おもちゃも洋服もかわいいモノが大好き。でも、だれにも相談できず自分でもどうしていいのかわからずに悩んでいるのです。

30 子どもたちの「LGBT」の問題で一番大切なことは、決めつけずに見守ること。人は百人いれば百通りの個性があります。その人の性格や好みがそれぞれ異なるように、性の在り方も様々。虹のようにグラデーションになっているんです。

35 LGBTに加え「Q」、クエスチョニングの存在についても知ってもらいたいですね。「迷っている、よくわからない、どちらとも決められない」という意味よ。自分の性や性的指向が曖昧だったり、揺れ動いている状態のことです。特に幼いお子さんの場合は、まわりの大人たちが安易に、この子は「LGBT」と決めつけずに、そっと見守ってほしいの。その揺れ動く心や迷いも含めて、その子自身なのだから。

40 「大丈夫。君は君だよ」と、子どもたち一人一人がもつ個性や多様性を認め、育んでいく。そんな豊かな社会を作っていかなければいけないと思います。